

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 11 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02515

研究課題名(和文)ソグド語金石文の総合的研究

研究課題名(英文)Comprehensive studies of the Sogdian epigraphic materials

研究代表者

吉田 豊 (YOSHIDA, Yutaka)

京都大学・文学研究科・教授

研究者番号：30191620

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：シルクロードの交易の民として、4世紀頃から10世紀にかけて活躍したイラン系のソグド人が残した零細な金石文を丹念に調査し解読することを目的として研究をすすめた。ソグド人がかつて居住した現在のウズベク、キルギス地域で発見される岩壁銘文や陶片文書、貨幣の銘文、ならびにソグド人が交易のために訪れた地域に残された落書きを主に研究した。具体的には、現在のキルギス共和国の遺跡で発見される資料と中国新疆ウイグル自治区のクチャ地区の千仏洞でみつかるとる落書きを主に扱った。別に、既に知られている碑文のうちモンゴル高原でみつかるとるカラバルガスン碑文の再研究も行った。現在その改訂テキストと翻訳を準備中である。

研究成果の概要(英文)：During the three years of the project, I studied epigraphic materials written in Sogdian, a Middle Iranian language belonging to the eastern branch of the Iranian group once spoken in what is now Uzbekistan, Tajikistan, and Kyrgyzstan. The Sogdians were traders along the Silk Road during the 4th to 10th centuries, and their linguistic materials have been discovered not only in their home lands but also in China, Mongolia, and even Japan. During the three years I visited Kyrgyzstan to read a few rock inscriptions, which have turned out to be the latest Sogdian materials dating back to the early 11th century. I also spent some time in deciphering several scribbles written on walls of Buddhist cave temples in Kucha, an oasis city in Xinjiang Uygur Autonomous, China. Apart from them, I published articles on some coin legends and ostraca unearthed in Kyrgyzstan. Revision of the so far published inscription discovered in Mongolia was also made and the revised edition is being prepared.

研究分野：言語学

キーワード：イラン語 ソグド語 シルクロード 金石文 貨幣銘文 キルギス共和国

1. 研究開始当初の背景

4—10世紀のシルクロードで活躍した交易の民、イラン系のソグド人の言語資料は主に紙文書であって、その大半は交易のために滞在したり定住したりした、現在は中華人民共和国の領土に含まれる敦煌とトルファンで見つかっている。しかもその大半は仏教、マニ教、東方キリスト教(景教)の聖典や儀礼書の類の原典からの翻訳である。それらには当然ながらソグド人固有の文化や歴史は記録されていない。一方ソグド人の故地であるウズベク共和国やキルギス共和国、タジク共和国の遺跡では、中国領の中央アジアと比較して相対的に湿潤な自然環境のために、紙、木簡、羊皮紙などの有機物は腐敗してまい保存されず、零細な量の金石文だけが残されている状況である。それらの保存状態の悪い銘文の解読は困難を極め、研究はまだ端緒にいたばかりで、今後は是非とも進展させるべき研究分野であった。

2. 研究の目的

インドヨーロッパ語族のイラン語派に属するソグド語は、中央アジアがイスラム化する以前にサマルカンドを中心とする現在のウズベキスタンで話されていた言語で、現在は死語となっている。シルクロードの交易の民であったソグド人が話すソグド語は、この地域の国際共通語でもあった。そのソグド語の資料の大半は、宗教文献や手紙等の紙文書であるが、碑文や金属器などに刻まれた金石銘文の類も残されている。ただこれらは零細であるだけでなく、保存が悪く解読は困難を極める。それ故、金石文はソグド語資料の中では最も研究が立ち後れた資料群である。その一方で、多くの場合年代が明らかであるこれら金石文の史的・資料的な価値は抜群で、その解明が言語研究や歴史研究に与える波及効果は絶大なものがある。本研究は、これらシルクロード世界全域に分散して存在するソグド語金

石文の全貌の把握と、重要な碑文や銘文の解読を目的としている。

3. 研究の方法

研究方法自体は極めてオーソドックスである。研究対象の形態や保管状況によっていくつかの方法がある。まず、大型の碑文や岩壁銘文の場合、金石文が残されている現地に赴き、実地に調査するとともに写真におさめ研究するという手法を採る。碑文の場合は拓本を採ることもあるが、屋外の岩壁銘文の拓本を作成することは素人では実質的に不可能である。ただ既に拓本が作成されている場合があるので、その場合には拓本が保管してある図書館や研究機関に赴いて調査する。現在及び過去の発掘によって獲得された資料の場合は、実物によるか提供された写真によって研究する。個人の収集家が保管するコインその他の小型の金属器の銘文の場合は、収集家の許可を得て実物ないしは写真にもとづき解読を行う。科学的な発掘によらないこれらの出土資料の場合は、真贋問題について細心の注意を払う必要がある。これまで三年間の研究期間においては、キルギス共和国のアクベシム遺跡の発掘調査に加わり自ら陶片資料を収集すると共に、岩壁銘文がある山中に赴き、実地に銘文を調査した。日本および現地の収集家から提供された写真によってコインの銘文を解読することもあった。

4. 研究成果

(1) 貨幣銘文の研究

中央アジアのコインの収集家である平野氏の収集品のなかのソグド語の銘文のあるコインを調査し、新しい解読を提案するとともに、銘文から読み取ることができるチュルク民族によるソグド支配について研究論文を発表した。これらのコインは単に中央アジアの政治史の史料となるだけでなく、ソグド語とチュルク語との言語接触の始まりや様態

を考える上でも重要な証拠となるとなることを考えている。そこで得られた成果の一つは、西突厥（6世紀後半から7世紀前半）の支配と、ウイグル第一可汗国（8世紀後半から9世紀前半）の支配を示すコインが見つかることである。特にウイグルの支配が現在のキルギス共和国の地域まで及んでいたことが、コインの存在で証明されることは大きな発見であった。（後掲業績表）

（2）キルギス共和国で発見されるソグド語金石文の総合的な研究

現在帝京大学が行っている、キルギス共和国内のイスラム化以前の遺跡（漢文史料の碎葉鎮、現在のアクベシム遺跡）の調査隊に加わり、現地での調査に参加した。その際、現在のキルギス共和国の首都ビシュケクの南に横たわるアラタウ山脈南側の渓谷でみつける岩壁銘文を実地に調査した。岩壁がある場所は3地点有るが、どれも険しい山中であり、徒歩で一日がかりで到達した。身長二倍ないし三倍の高さにある銘文では、垂直な岩壁に梯子をかけて行う調査は困難を極めたが、別に同行した考古学者と共に写真も撮影することができた。調査の結果、ソグド語資料の中では最も遅い11世紀初めのものと分かった。しかし未だに未解読の部分も多く残されており、今後の研究課題である。

この帝京大学の調査の合同発表会で、現在キルギス共和国に存在するソグド語の金石文全体についての報告を行った。その中では、陶器に書かれた銘文についても触れているが、陶器が破損したあとで破片を書写材料に用いる所謂オストラコン（陶片文書）以外に、焼成以前に刻み込まれた所有者、注文者による銘文を区別しなければならないことを強調した。さらに焼成前に書き込まれた長い銘文の一つを解読し、その絶対年代を9世紀初めに特定することができた。これは大きな壺の縁に書かれた銘文で、容器自体はキリスト教の教会の倉庫に保管された葡萄酒を入れ

ておく大瓶である。この年代決定は重要で、現在発掘中のアクベシム遺跡が、8世紀おわりに東方キリスト教の主教座が置かれたという伝承がある都市であったことを示す証拠になると考えられる。（後掲業績表、吉田豊「キルギス共和国を中心としたソグド語史料」『2017年度シルクロード学研究会報告集』帝京大学文化財研究所 2017.12, pp. 63-69.）

（3）クチャの千仏洞の壁面に見られる落書き

中華人民共和国新疆ウイグル自治区のオアシス都市であるクチャには、有名なキジル千仏洞を初めとしていくつかの千仏洞があるが、そこには何カ所か零細なソグド語の落書きがある。今から30年ほど前、20世紀初めの探検隊の写真や、私自身の現地調査により、世界に先駆けそのことを発見したのはこの私であったが、近年中国の研究者たちは千仏洞内の銘文（中国語では「題記」と呼んでいる）を組織的に調査し写真に納めている。私はそのうちのソグド語銘文の研究を依頼され、鮮明な写真の提供を受けて解読を行った。その成果は近く中国で発表されることになっており、現在校正の最中である。

（4）モンゴル高原のソグド語碑文の研究

モンゴル共和国内には現在までのところ3点のソグド語碑文が知られている。私は3つとも1997年に現地調査している。その内の最大のものはウイグル可汗国時代の9世紀初めに建てられたカラバルガスン碑文である。3言語版であり、ソグド語以外に漢文及び古代トルコ語版がある。長年この碑文について研究してきたが、ソグド語版の最終的な校訂出版に向けた作業を続けている。2017年度にはソグド語版の解明の鍵となる漢文版に関して森安孝夫大阪大学名誉教授と共同研究を行い、漢文版の英訳を準備した。ただ現在未だ発表されていない。

(5) 本研究の副産物ないし予期せぬ成果 :
その他のイラン系言語の金石文に付いての
研究

立正大学のチームが現在ウズベク共和国の
南にあるカラテペ遺跡で発掘を行っている
が、そこでソグド語と密接な関係にあるイラン
系のバクトリア語の陶片文書が2点発見され
た。ソグド語の金石文を研究している関係
で、その陶片文書の解読を依頼され解読の成
果を発表した。(後掲業績表)

また、1955年に中国西安で発見されていた
中世ペルシア語と漢文のバイリンガルの墓
誌がある。これは9世紀後半長安で死んだペ
ルシア人女性の墓に納められていた墓誌で
あるが、その研究を見直す機会を与えられ、
いくらか改善した解読を、2017年6月にロ
ンドンで行われた国際学会で口頭発表した。発
表論文は現在印刷中である。

この論文ではこの9世紀後半に長安に住ん
でいたペルシア人が書いた墓誌が、ペルシア
語の歴史を研究する上で持つ重要な意義に
ついて注意を喚起した。私はかつて、奈良
の法隆寺が保管してきた奈良時代の香木に、
ソグド語の焼き印と中世ペルシア語の刻文
があることを発見していたが、その背景とな
る香木の貿易に関わるペルシア商人とソグ
ド商人の関係を幾分明らかにすることもで
きた。

それとの関連で、新疆ウイグル自治区コー
タン市で発見されたユダヤペルシア語の手
紙についての研究も発表した。ソグド語話
者がペルシア語に移行していく過程の一端
を発見できたと考えている。(後掲業績表)

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に
は下線)

[雑誌論文](計 17件)

Y. Yoshida, “The family tree model and ‘dead
dialects’: Eastern Middle Iranian languages”, in:
R. Kikusawa and L. A. Reid (eds.), *Les talk
about trees: Genetic relationships of languages
and their phylogenetic representation*, 査読あり

Japan, 2018, pp. 123-152.

Y. Yoshida, “Relationship between Sogdiana
and Turfan during the 10th - 11th centuries as
reflected in Manichaean Sogdian texts”, *Journal
of the International Silk Roads Studies* 査読あり
Vol. 1, 2017, pp. 113-125.

吉田豊「貨幣の銘文に反映されたチュルク
族によるソグド支配」『京都大学文学部紀要』
査読なし 57, 2018, pp. 155-182.

Y. Yoshida, “Middle Iranian Terms in the Xiapu
Chinese Texts: Four Aspects of the Father of
Greatness in Parthian,” in: S. N. C. Lieu (ed.),
Manichaeism, East and West, 査読あり
Turnhout: Brepols, 2017, pp. 249-256.

Y. Yoshida, “The Xiapu 霞浦 Manichaean
text Sijizan 四寂讚 ‘Praise of the Four Entities
of Calmness’ and its Parthian original”, in: Team
“Turfanforschung” (ed.), *Zur lichten Heimat.
Studien zu Manichäismus, Iranistik, und
Zentralasienkunde im Gedenken an Werner
Sundermann*, 査読あり Iranica 25, Wiesbaden
2017, pp. 719-736.

吉田豊「コータンのユダヤ・ソグド商人？」
土肥義和・氣賀澤保規編『敦煌・吐魯番文書
の世界とその時代』査読あり東京：東洋文庫
2017/3, pp. 263-285.

吉田豊「中国、トルファンおよびソグディ
アナのソグド人景教徒—大谷探検隊将来西
域文化資料2497が提起する問題—」入澤崇・
橘堂晃一(編集)『大谷探検隊収集西域胡語
文献論叢 仏教・マニ教・景教』査読なし
京都 2017/3/31, pp. 155-180.

Y. Yoshida, “A Manichaean Middle Persian
fragment preserved in the Kyōushooku Library,
Osaka, Japan”, in: E. Morano, E. Provasi and A.
V. Rossi (eds.), *Studia Philologica Iranica.
Gherardo Gnoli memorial volume*, 査読なし
Rome: Scienze e Lettere, 2017, pp. 509-515.

吉田豊「トルファンおよび中国江南のマニ
教絵画について—マニの描いた「絵図」を視
野に」宮治昭編『アジア仏教美術論集 中央
アジア ガンダーラ～東西トルキスタン』査
読あり 東京, 中央公論美術出版, 2017, pp.
551-582.

吉田豊「ソグド語訳『楞伽師資記』と関連
する問題について」『東方学』査読あり 133,
2017, pp. 52-31.

Y. Yoshida, “Chinese loanwords in Middle
Iranian”, in: R. Sybesma et al. (eds.),
*Encyclopedia of Chinese language and
linguistics*, 査読あり vol. 1, Leiden/Boston,

Brill, 2017, pp. 557-561.

吉田豊「唐代におけるマニ教信仰—新出の霞浦資料から見えてくること」『唐代史研究』査読あり 第19号 2016.8, pp. 22-41.

吉田豊「西安出土北周「史君墓誌」ソグド語部分訳注」石見清裕編『ソグド人墓誌研究』査読なし 2016, pp. 61-80.

吉田豊「江南マニ教絵画「聖者伝図(3)」の発見と絵画の内容について」『大和文華』査読あり 129号, 2016, pp. 25-41.

Y. Yoshida, "Local literatures: Sogdian", in: J. Silk (ed.), *Brill's Encyclopedia of Buddhism: Volume 1 Literature and languages*, 査読あり Brill, 2015, pp. 837-843.

吉田豊「陶片のバクトリア語銘文について」,立証大学ウズベキスタン学術調査隊『ウズベキスタン共和国スルハンダリヤ州所在カラ・テペ遺跡—2015年度調査概要報告書』査読なし 東京:立正大学 2016, pp. 39-43.

Y. Yoshida, "Sogdian language i. Description", *Encyclopædia Iranica*, online edition, 査読あり 2016
<http://www.iranicaonline.org/articles/sogdian-language-01>

〔学会発表〕(計 7件)

Y. Yoshida, Three scenarios for the historical background of the Xi'an Sino-Pahlavi inscription
The History and culture of Iran Iran and Central Asia in the First Millennium CE: From the Pre-Islamic to the Islamic Era
2017

Y. Yoshida
On the Sogdian Karmavibhanga and the related problems
Exchange of languages, religions along the Silk Road
2017

Yutaka Yoshida
On some aspects of the early phase of the Uighur Manichaeism
International conference of the International Association of Manichaean Studies
Yutaka Yoshida
Chinese influences on the Sogdian culture

Bowu xue and Manuscript culture
2015

吉田豊
近年の中国マニ教研究
唐代史研究会夏期シンポジウム
2015

Y. Yoshida
Sogdian Christians in Sogdiana, Turfan, and China
From Tajikistan to Turfan: Traces of Cultural Heritage of Sogdians
2015

吉田豊
ソグド語の金石文: セミレチエ地区のトルコ人とソグド人
日本オリエント学会
2015

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計 0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

○取得状況(計 0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:
〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

吉田 豊 (YOSHIDA, Yutaka)

京都大学・文学研究科・教授

研究者番号: 30191620

(2)研究分担者

(3)連携研究者

(4)研究協力者

(0)